【給食牛乳の容器変更について】

春から給食牛乳の容器が変更になる。現在教育委員会は、アレルギー対応のため、毎日１万６千数百ずつ廃棄される紙パックとストローを当分の間は焼却処分する方針。焼却処分費は、試算では年間 223 万円の市税負担。

３Ｒのうちリサイクルもコストがかかり、CO2 も排出するため、環境負荷の点でも優れているのはリユース。子どもたちからリユースの実践の場を奪い、マイクロプラスチックになりやすいストローを紙パックとともに毎日捨てさせることは、時代の流れに逆行する行為。また、市の CO2 排出量を増やすことになり、東京都のゼロエミッションにも逆行する。子どもたちが日々触れる給食の牛乳容器に、市の環境政策推進への姿勢を反映させ、実践を通して学ぶ機会を提供するべき。

＜答弁＞

市の学校給食牛乳は，調布市教育委員会が東京都教育委員会を通じて東京学乳協議会に契約を依頼し，安定的かつ廉価に提供している。

東京学乳協議会を構成する事業者のうち，ビン装で飲用牛乳を供給してきた大手事業者が学校給食用牛乳の供給事業から撤退することに伴い，東京学乳協議会と契約する市区町村の全てが，令和２年度から紙パック装の飲用牛乳となることになった。

また，令和２年度以降は，牛乳供給事業者による空き紙パックの回収・処理を実施しない旨，東京学乳協議会から調布市教育委員会に通告があった。

紙パックは洗浄・乾燥など適切に処理すればリサイクルに適した資源であり，紙パックを題材に，子どもたちが環境を考える機会を提供することは大変意義のあるものと考えているが，小・中学校には乳アレルギーの児童・生徒も在籍しており，安全面の配慮も必要となることから，令和２年度は，リサイクルは行わない予定。

市としても，教育委員会が，牛乳の品質及び安全性の確保はもとより，環境保護を考慮し，安定的に飲用牛乳を提供することができるよう支援していく。